

学校教育目標	自他を尊重し、主体的に学び続ける子どもの育成		
--------	------------------------	--	--

a ミッション	組織的な学校経営を生かした小中連携教育による主体性・表現力の育成	a ビジョン	(1) 児童も教職員も生き生きと活動するあたたかい学校 (2) 環境が整った規律ある落ち着いた学校 「我が校に清あり静あり緑あり」 (3) 家庭・地域から信頼され、共に歩む学校
---------	----------------------------------	--------	--

尾道市立因北小学校

評価計画					自己評価					学校関係者評価			改善計画	
b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月		h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価			l コメント	m 改善案
					g 達成値	g 達成値				イ	ロ	ハ		
か く く	自ら学び、いきいきと表現する力を育てる。	主体的な学びを促す知識・技能の習得	「わかった!」「できた!」「やった!」と児童が思う授業づくりや学力補充をする。	国語科・算数科(知技)の単元末テストの正答率80%を上回る児童85%以上、60%を下回る児童10%未満	85%	76%	89	B	・学期末テストにおける内容によって定着度に差があった。低学年では、促音や拗音(国語)、時計(算数)に対するつまずきが見られた。 ・60%未満の児童は9%であり、個別指導の効果がある。	2			・個別指導の効果が認められたようなので、継続してほしい。	・単元末テストに個人差・学級差があるため、学力補充等のフォローをしていく。
	表現力の向上	「かかわる」「表す」「見つめ直す」授業づくりを進める。	国語科の単元末テストの記述式回答(活用)の通過率76%以上もしくは各学年で設定した書き方ができる児童76%以上	76%	67%	88	B	・目標値を越えた学級が少なかった。えんぴつタイムが不定期だったことや、基本的な書き方が十分に定着できずに学習を進めていることが要因として考えられる。	2			・改善対策を見直し、向上に向かわせてほしい。	・夏季休業中に行った、えんぴつタイム、チャレンジタイムの研修・交流を生かし、基本的な書き方の定着を図る。	
や く く	心豊かな人間性を培う。	自己肯定感の向上	学校や学級の中で児童一人一人に役割をもたせ、自己実現できる仕事内容や場を設ける。	自分に対し、肯定的に捉えている児童80%以上	80%	83%	107	A	・目標値としては達成した。特活や行事の場における児童の主体性を重視した成果が表れていると考えられる。 ・2学期からは、児童の頑張った過程や様子など、基本的自尊感情に目を向けたフィードバックをより行っていきたい。	2			・一人一人が自信が持てるように導いてほしい。 ・教師側でアンケートの数値について再度分析し、課題を明らかにしてほしい。	・自尊感情や参画意識について向上が見られた。継続して取組を実施していく。
	「3つの宝」を通じた思いやりの育成	「3つの宝」のよさを実感できる取組を仕組み、フィードバックや評価を行うことで、思いやりの心を育む。	「3つの宝」が実践できる児童90%以上	90%	93%	103	A	・目標値は達成したが、3つの宝が児童の生活の中に位置付けているかについて課題が残る。 ・「実践できている」という認識について共通理解が必要であると考えられる。	2			・学校生活だけでなく、日常的な定着を目指してほしい。	・「3つの宝」の中でも、くつそろえに課題が大きい。委員会活動を活性化し、児童が主体的に課題解決を図ることができるように仕組んでいく。	
た く ま く	目標の実現に向け、粘り強くやり抜く力を育てる。	体力の向上	授業や外遊びを工夫し、児童が目標をもちながら体力づくりを行い体力の向上を図る。	【7月】 ・昨年度の自分の50m走の記録を上回る児童95%以上 【1月】 ・春の自分の50m走の記録を上回る児童95%以上	95%	92%	97	B	・目標を達成することができなかった。授業や休憩時間の運動量の確保はできていると考えられるので、昨年度よりタイムが伸びていない児童への個別の対応が必要がある。	2			・夏季休業中の体力低下が心配される。	・なわとびの取組を2学期に前倒して行うことで、継続的な取組とし、記録の向上から、自らの成長を感じながら主体的に取り組むことができるようにする。
	よりよい生活習慣の確立	生活リズム週間を行い、児童が自分の生活習慣を振り返ったり、改善したりして適切な生活習慣を身に付ける。	自分の設定した起床時刻を守って生活することができる児童80%以上	80%	88%	110	A	・目標を達成することができ、生活リズムチェックシートに保護者からのコメント欄を設定したため、家庭でも児童と一緒に取り組んでいただけた。達成できていない児童や家庭へのアプローチの方法を考えていく必要がある。	2			・家庭での生活について、保護者と一緒に取り組んで行うことは大切なことだと思う。	・保護者と連携を図り、継続して取り組んでいく。 ・メディア時間等その他の項目についても吟味していく。	
選択と集中	働き方改革の推進	児童に向き合う時間の確保	退勤時刻を意識したり、仕事の優先順位を考えたりして、勤務に見通しをもつ。	働きやすい職場にしようとしている教職員80%以上	80%	100%	125	A	・職員で関わり合おうとする姿が見られ、児童の情報の共有がスムーズにできている。また退勤時刻を自分で設定することで見通しがもちやすくなっている。	2			・教職員が連携されていることは心強い。 ・働き方改革について、管理職がしっかりスクラップして欲しい。	・1学期、「働きやすい職場にしよう」と声を掛け合っている教職員が100%だったため、2学期は指標に「仕事の優先順位や退勤時刻を意識して仕事をする」ことを加えて取り組む。

【自己評価 評価】
A: 100≦(目標達成)
C: 60≦(もう少し) < 80

B: 80≦(ほぼ達成) < 100
D: (できていない) < 60

【外部評価】 イ: 自己評価は適正である。ロ: 自己評価は適正でない。 ハ: わからない。

様式2

方策進行管理シート

令和5年度 尾道市因北小学校

	目標達成のための方策	活 動	4月	5月	6月	7月	活動達成度	方策達成度	取組評価
			目標数	目標数	目標数	目標数			
			達成数	達成数	達成数	達成数			
か し こ く	「わかった」「できた」「やった!」と児童が思う授業づくりや学力補充をする。	基礎基本の定着を意識した授業づくりや個別指導を行う。(研究部)	90	90	90	90			
		チャレンジタイムを実施し、確実に間違え直しをする。(研究部)	100	100	100	100			
	「かかわる」「表す」「見つめ直す」授業づくりを進める。	授業では、児童が、自分の考えとその理由を明らかにして書き表す場を設定している。(研究部)	85	85	85	85			
		えんぴつタイムを確実に実施し、児童にフィードバックする。(研究部)	100	100	100	100			
や さ し く	学校や学級の中で児童一人一人に役割をもたせ、自己実現できる仕事内容や場を設ける。	児童の自己有用感や自己実現への意欲に働きかけるフィードバックをする。	90	90	90	90			
		児童一人一人に役割をもたせ、自己実現できる仕事内容や場を設ける。(生徒指導部)	100	100	100	100			
	「三つの宝」のよさを実感できる取組を行う。	「三つの宝」のよさを実感できる取組を仕組み、フィードバックや評価まで行う。(生徒指導部)	100	100	100	100			
た く ま し く	授業や外遊びを工夫し、児童が目標をもちながら体力づくりを行い体力の向上を図る。	ウォーミングアップを工夫する等して、授業の運動量の確保(1コマ45分のうち25分以上)(保健体育部)	90	90	90	90			
	生活リズム週間を行い、児童が自分の生活習慣を振り返ったり、改善したりして適切な生活習慣を身に付ける。	適切な生活リズムで過ごすことの価値を伝えたり、意識したりできるような指導を行う。(保健だより、保健指導、栄養指導の活用)(保健体育部)	90	90	90	90			
選 択 と 集 中	○退勤予定時刻を長期的に周知し、勤務の見通しを持ち、退勤時刻を守る雰囲気をつくる。	学年部や分掌などの活動の目的や職員間のコミュニケーションを意識するなど、自分も周りも働きやすい職場環境にするよう心がけている。(教務部)	80	80	80	80			

【取組評価】 A:100≦(目標達成) B:80≦(ほぼ達成)<100 C:60≦(もう少し)<80 D:(できていない)<60